資料提供　報道機関各位　　令和７年７月 31 日

茨城県

水稲高温耐性品種「にじのきらめき」の栽培技術などに関する現地検討会を開催します

～米の安定生産と所得向上を目指して～

（いばらき農業アカデミー令和７年度品目別先進農業技術講座）

水田経営では、近年の夏季高温による１等米比率の低下や、雑草や害虫による減収等が問題となっており、米の安定的な生産と所得向上が課題となっています。

県農業研究所では、**高温でも品質が良く収量の多い「にじのきらめき」の栽培管理技術**や、近年問題となっている**水田雑草ナガエツルノゲイトウの防除技術の開発**、水田経営の安定化に向けて、**水田でキャベツを栽培するための湿害回避技術の実証**について取り組んでいます。

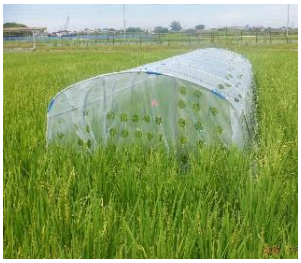
今回、これらの成果について、現地検討会を開催し生産者に紹介します。生産者や関係者など 50 名の参加者を予定し、活発な意見交換を行いますので、儲かる農業の実現に向けた研究の取組を県民にも広く紹介していただきたく、ご案内いたします。

【日時】令和７年８月５日（火）　13：30～16：00（受付開始 13：00）

【場所】茨城県農業総合センター農業研究所　水田利用研究室
（龍ケ崎市大徳町 3974）

【内容】**１　室内検討**（13：30～15：00）
（１）「にじのきらめき」の高品質安定多収栽培技術について
（２）ナガエツルノゲイトウの防除技術について
（３）水田キャベツの湿害回避技術について
２　ほ場検討（15：10～16：00）　※小雨決行、荒天の場合状況により中止
（１）「にじのきらめき」栽培試験および水田転作ネギ栽培試験のほ場見学
（２）斑点米カメムシ類のすくい取り調査実演

※事前の取材申込は不要です。
※当日はほ場検討もあることから暑熱対策の上、汚れても良い服装・履物でお越しください。



写真：「にじのきらめき」の栽培試験
（左：ハウスによる高温処理、右：成熟期頃の様子）

写真：ナガエツルノゲイトウと除草剤試験
（左：開花期の様子　右：隔離温室でのポット試験）

第２次 茨城県総合計画 2022-2025
「新しい茨城」への挑戦

【お問い合わせ先】
茨城県農業総合センター農業研究所
担当:研究調整監　森　拓也
TEL:029-239-7211
e-mail:ta.mori@pref.ibaraki.lg.jp

参考資料

にじのきらめきについて

玄米の外観（左「にじのきらめき」、右「コシヒカリ」）

「にじのきらめき」は、国の研究機関（農研機構）が育成した品種で、令和4年に品種登録されました。夏の高温や病気に強く、大粒で収量性に優れています。「にじのきらめき」は、令和6年に県の奨励品種に指定されており、現在、栽培面積が拡大しています。

特定外来生物注)ナガエツルノゲイトウについて

ナガエツルノゲイトウは南米原産の多年草で、主に水辺に生息します。繁殖力が非常に強く、茎や根などの小さい断片でも再生し、すぐに繁茂するため、全国的に問題となっています。

水田に侵入すると、慣行の除草剤散布だけでは防除しきれずに、水稲の生育を阻害したり、コンバインによる収穫作業を妨げます。

県内では霞ケ浦、北浦及び周辺河川流域などで生息域が拡大しており、一部地域では農地への進入が確認されるなど、農業被害の発生が懸念されています。

注)外来生物法により「特定外来生物」に指定されており、拡散を防ぐために、保管、運搬、放出等が禁止されています。

水田キャベツの湿害について

水田経営の安定化に向けて、県内の水田においてキャベツの導入が進んでいますが、キャベツは生育期間中の湿害により根がダメージを受けて生育不良となり、減収することが問題となっています。

近年、気候変動の影響で短時間強雨の発生頻度は増加しており、湿害を回避するための排水対策は不可欠です。

水田キャベツの湿害

斑点米カメムシ類について

稲の穂を吸汁加害するイネカメムシ成虫

イネカメムシによる基部斑点米

斑点米カメムシ類は、水稲の穂を吸汁・加害することで、斑点米注)による品質低下を生じさせます。また、不稔粒発生による収穫量の低下を引き起こすこともあります。近年、全国的に問題となっているイネカメムシは、斑点米カメムシ類の一種で、県内においても発生が増加傾向にあります。

注)斑点米：カメムシの吸汁により黒～茶色の食害痕（斑点）が生じた玄米